

【ファーストステップFX】

Part2 トレーダーとしての レベルアップの為に

第7章

チャートパターン

株式会社チャートマスター

■はじめに

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリック出来ます。出来ない場合は最新の AdobeReader をダウンロードして下さい。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものである為、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部を如何なる手段においても複製、転載、流用、転売等する事を禁じます。

著作権等違反の行為を行なった時、その他不法行為に該当する行為を行なった時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行なう等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行なう場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行なう権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等が有りましたが、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

このレポートを利用する事により生じた如何なる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わない事をご了承願います。

目次

※目次の見出しをクリックすると、その見出しのページに移動します。

| | |
|--|----|
| ■ チャートパターンとは？..... | 4 |
| ◆ 天井圏や底値圏で見られるチャートパターン..... | 5 |
| ◆ 持合い系チャートパターン（三角持合い系）..... | 5 |
| ◆ 持合い系チャートパターン（その他持合い系）..... | 6 |
| ■ 『主要な高値・安値』、『トレンドの転換時』等に見られるチャートパターン..... | 7 |
| （1）ダブルトップ..... | 7 |
| （2）ダブルボトム..... | 8 |
| （3）ダブルトップ（ダブルボトム）が出来る訳..... | 9 |
| （4）ヘッドアンドショルダー..... | 14 |
| （5）逆ヘッドアンドショルダー..... | 15 |
| （6）ヘッドアンドショルダー（逆ヘッドアンドショルダー）が出来る訳..... | 16 |
| ■ 持ち合い時に見られるチャートパターン（..... | 20 |
| （1）ペナント..... | 20 |
| （2）アセンディング・トライアングル..... | 22 |
| （3）ディセンディング・トライアングル..... | 23 |
| （4）ウェッジ..... | 24 |
| （5）三角持ち合いが出来る訳..... | 25 |
| ■ その他持ち合い系のチャートパターン..... | 28 |
| （1）フラッグ..... | 28 |
| （2）ボックス..... | 29 |
| ■ チャートパターンでの『騙し』について..... | 30 |

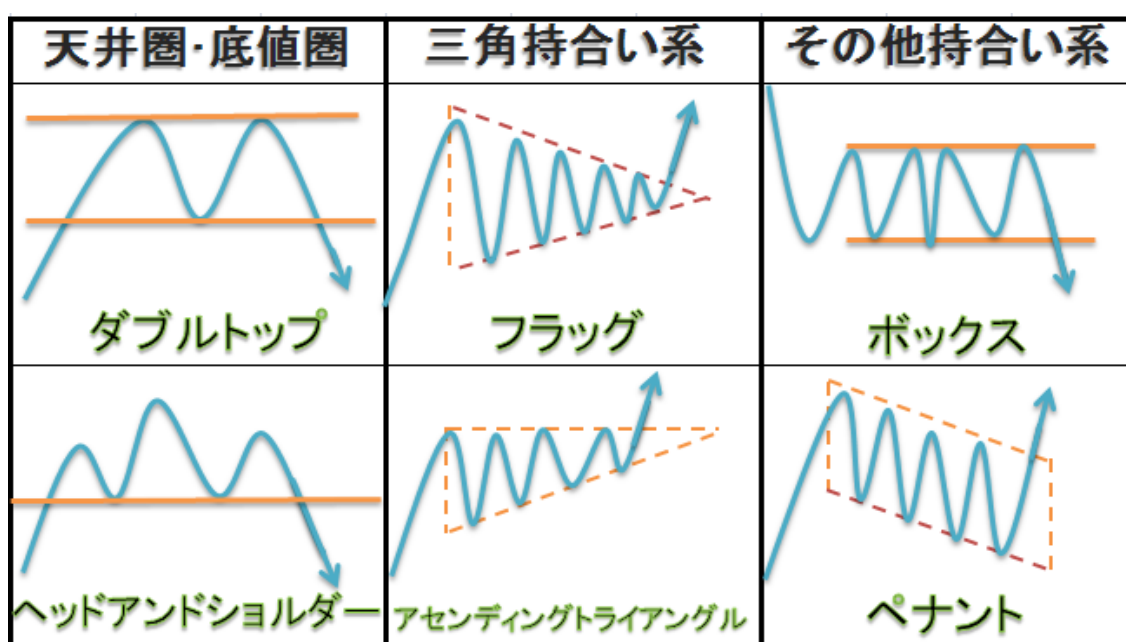
■チャートパターンとは？

チャートパターンとは、トレンド転換時や、持ち合い時に現れるチャートの形成パターンです。必ずそのパターンをたどるとも限りませんが、知っておく事でトレードのシナリオ/戦略を立てる参考になります。

市場原理・市場心理は、一定の法則性を持っています。その一定の法則の中でチャートに一定の形として定義付け出来る物があります。それが「チャートパターン」と呼ばれる物です。

初級者トレーダーの方でよく見掛けるのが、チャートパターンのみでトレードをされているケースです。何度も言いますがチャートパターンは絶対ではありません。騙しに遭う事もあります。

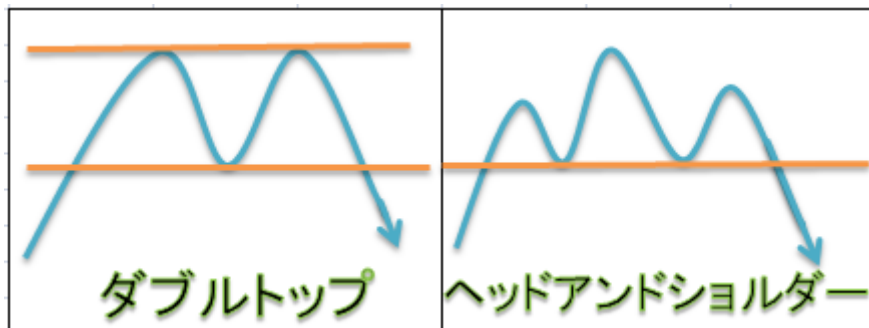
トレンドの判断・適切なポジション量等、複合的に使う事により理想的な結果に近づく事が出来ると念頭に置き、参考にして下さい。



チャートパターンは大きく3つに分類する事が出来ます。

[▲目次へ戻る▲](#)

◆天井圏や底値圏で見られるチャートパターン

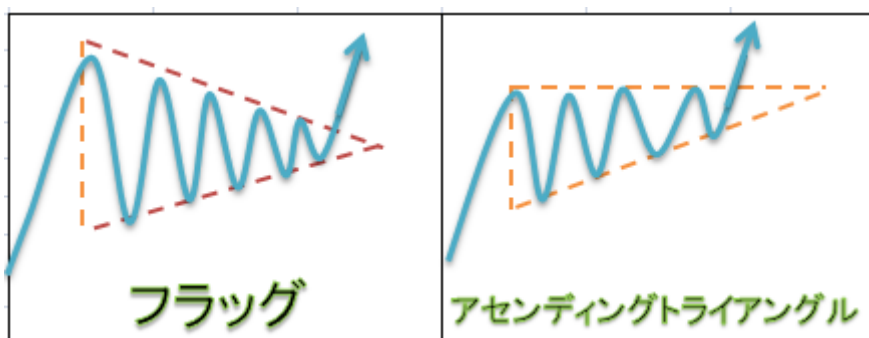


天井圏や底値圏ではダブルトップ（ダブルボトム）等のチャートパターンを形成し、ネックラインを割ってエントリーするのが定石です。

エントリーが早いと（ネックラインを割る前だと）逆張りになってしまう事がありますので、トレンドフォローのトレードをする場合は注意して下さい。

[▲目次へ戻る▲](#)

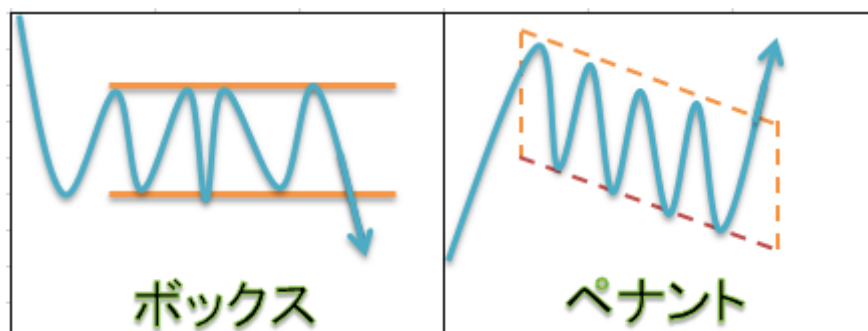
◆持合い系チャートパターン（三角持合い系）



持合い系のチャートパターンはトレンドに対する調整で見られる事が多く、同じくネックラインを割った所でのエントリーが定石です。

[▲目次へ戻る▲](#)

◆持合い系チャートパターン（その他持合い系）



やはりトレンドに対しての調整として見られるチャートパターンです。三角持合い系と違う所は、比較的調整が長く続く事が多い事と、ボラティリティが下がってきた時に多く見られます。

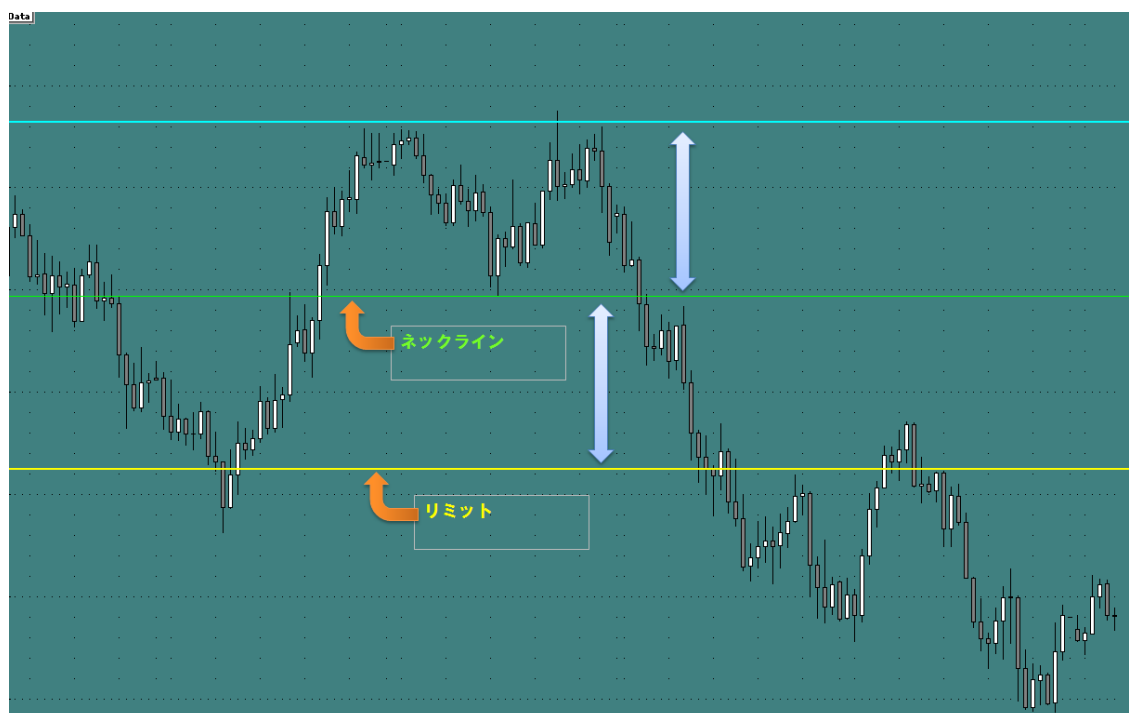
三角持合い系もボックスの持合い系も、調整として形成される事が多いので、トレンド判断が出来ていないと上手く使いこなす事は困難です。

トレンド判断をして、トレンドに戻った所でエントリーするように心掛けて下さい。

[▲目次へ戻る▲](#)

■ 『主要な高値・安値』、『トレンドの転換時』等に見られるチャートパターン

(1) ダブルトップ

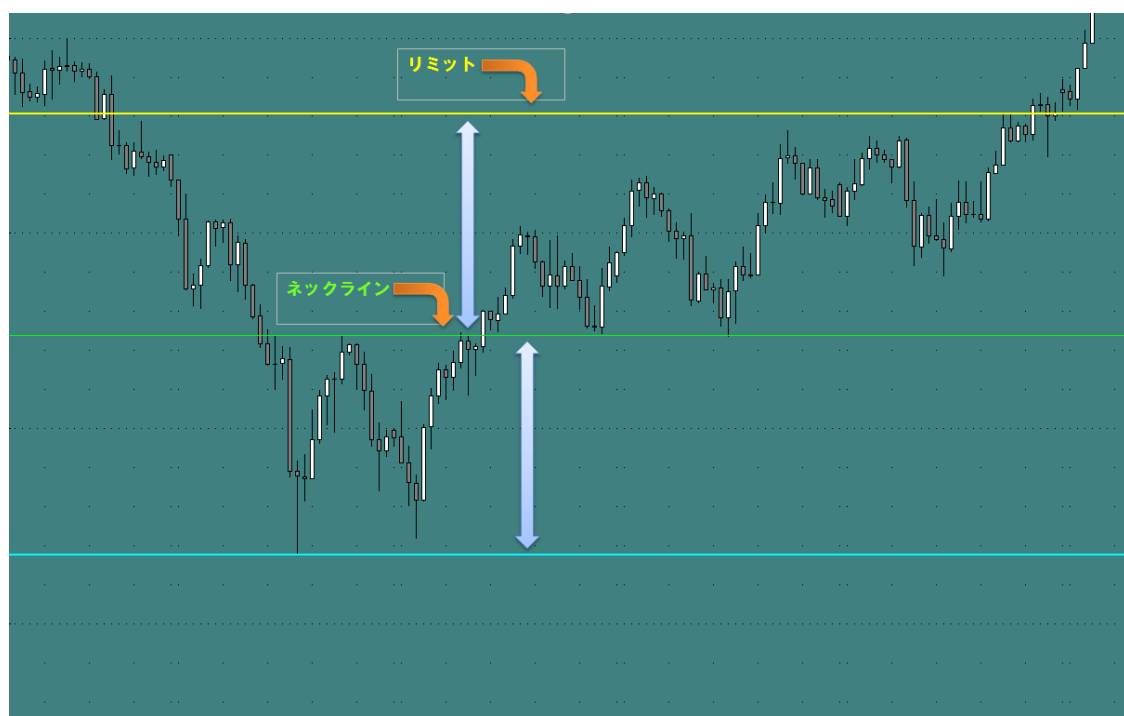


高値を2回試して、2回とも同じ値（水色）で売りに押され、前回の安値（緑）を下回ると、ダウントrendが発生し易いとされている為、ネックライン（緑）をブレイク後にエントリー、ネックライン（緑）とダブルトップのレジスタンスライン（水色）の幅（pips 数）と同じ幅を、ネックライン（緑）から下に計り、リミット（黄色）を設定します。

ストップはネックライン（緑）に設定します。
これがダブルトップの定石です。

[▲目次へ戻る▲](#)

(2) ダブルボトム



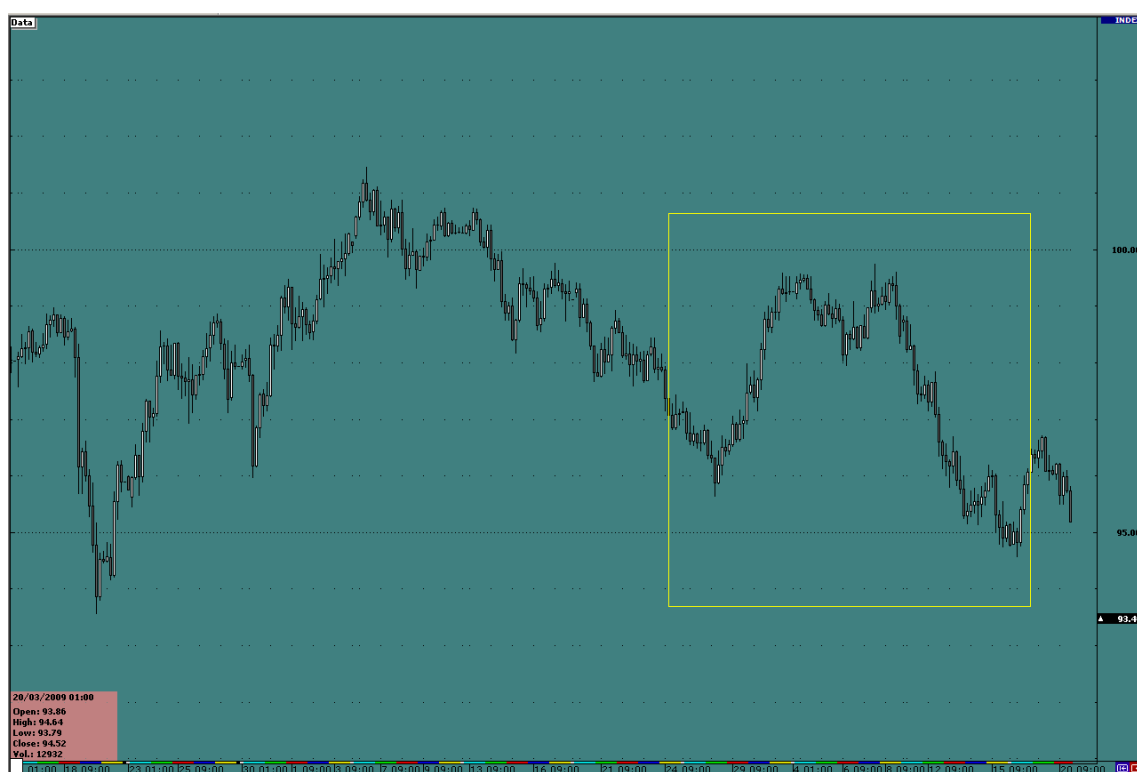
先程のダブルトップの逆バージョンです。

安値を2回試して、2回とも同じ値（水色）で買いに押され、前回の高値（緑）を上回ると、アップトレンドが発生し易いとされています。
ネックライン（緑）をブレイクしたらエントリーとなります。

トレードシナリオはダブルトップと同じです。

[▲目次へ戻る▲](#)

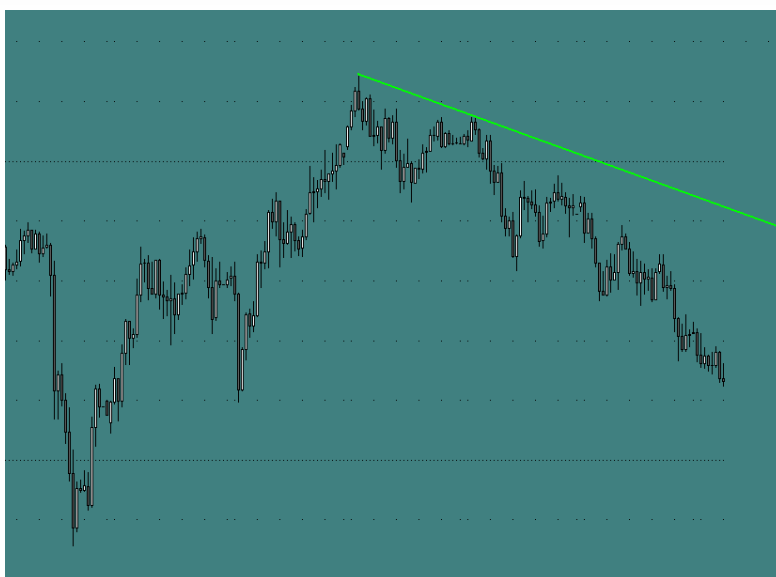
(3) ダブルトップ (ダブルボトム) が出る訳



上のチャートで黄色の四角で囲まれた部分が、ダブルトップです。

どの様に、ダブルトップが出来上がったのか、テクニカル分析の観点から見た市場心理等も織り交ぜ、順を追って説明します。

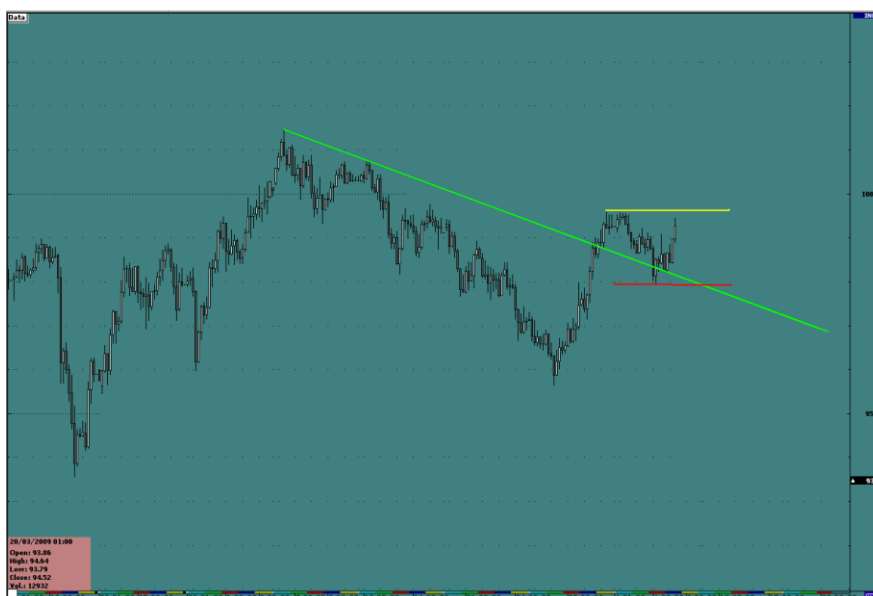
ダブルトップが出来上がる少し前から見てみます。



直近のトレンドはダウントrendを形成しています。トレンドの勢いや転換期の目安とする為に、代表的なトレンドラインを引いてあります。

このトレンドラインの近くで価格が動いている時は、トレンドの勢いが弱く、揉み合い相場になる傾向が強いです。トレンドラインの抵抗を受け再び値段が下がり始めた所で売りエントリーを行えばトレンドフォロー戦略としても成立します。

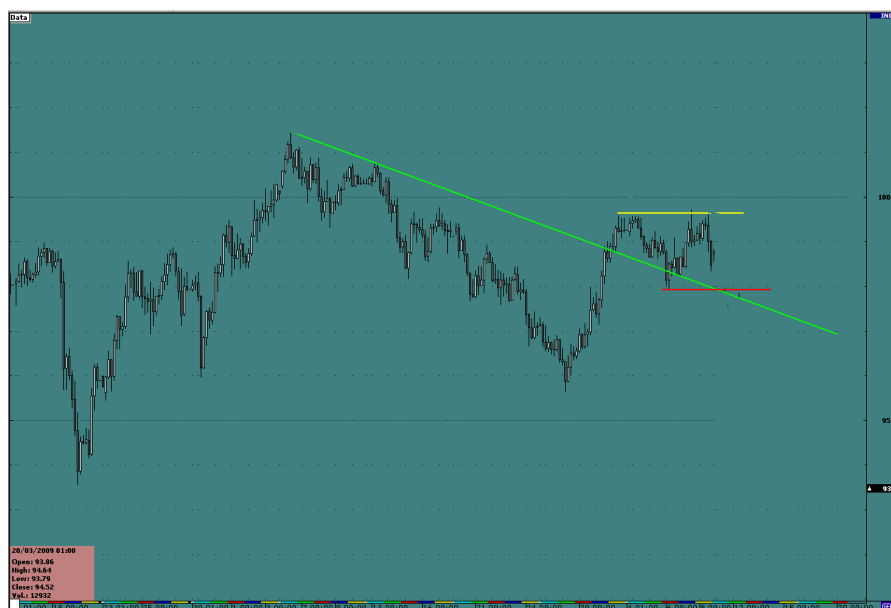
しかし、上に割ってくればダウントrendからアップトレンドに転換する可能性があります。



結果としてトレンドラインを上を抜けて行きました。

その後抜けたトレンドライン付近で抵抗を受けた場合、これも“リテスト”と呼ばれるチャートパターンの一つです。この場合、前回の高値（黄色横線）を更新したら、ダウ理論を取り入れた買いでのエントリーが定石とされています。

移動平均線（MA）やMACD等をエントリーサインにしている場合、ダウ理論によるエントリーよりも早く、直近の主要な底値（赤横線）にストップを設定したエントリーをするトレーダーも現れます。このトレーダーの多くは前回の高値を狙って決済するか、更にその上を狙ってきます。



その為、価格は上昇しますが、直近の高値（黄色横線）で、利食いをするトレーダーの決済注文が入ります。買いエントリーでの決済注文は、売りになります。直近の高値で決済（売り）の注文が入れば、値段は高値付近がレジスタンスとなります。

もし、高値（黄色横線）での決済注文が少なく、買い注文が進み、高値を更新すると、ブレイクアウト戦略のトレーダーや、ダウ理論を参考にアップトレンドと判断したトレーダー達の買い注文が更に入り、アップトレンドに転じる事もありますが、今回は高値の抵抗が強かったようです。

同じ価格帯で高値を 2 回付けて、後は赤横線のネックラインを下に抜けると、ダブルトップが確定します。

今度は、そのダブルトップを狙ってくるトレーダーが現れます。ネックラインを割る前に高値にストップを設定し、売りで仕掛けてくるトレーダーも現れます。



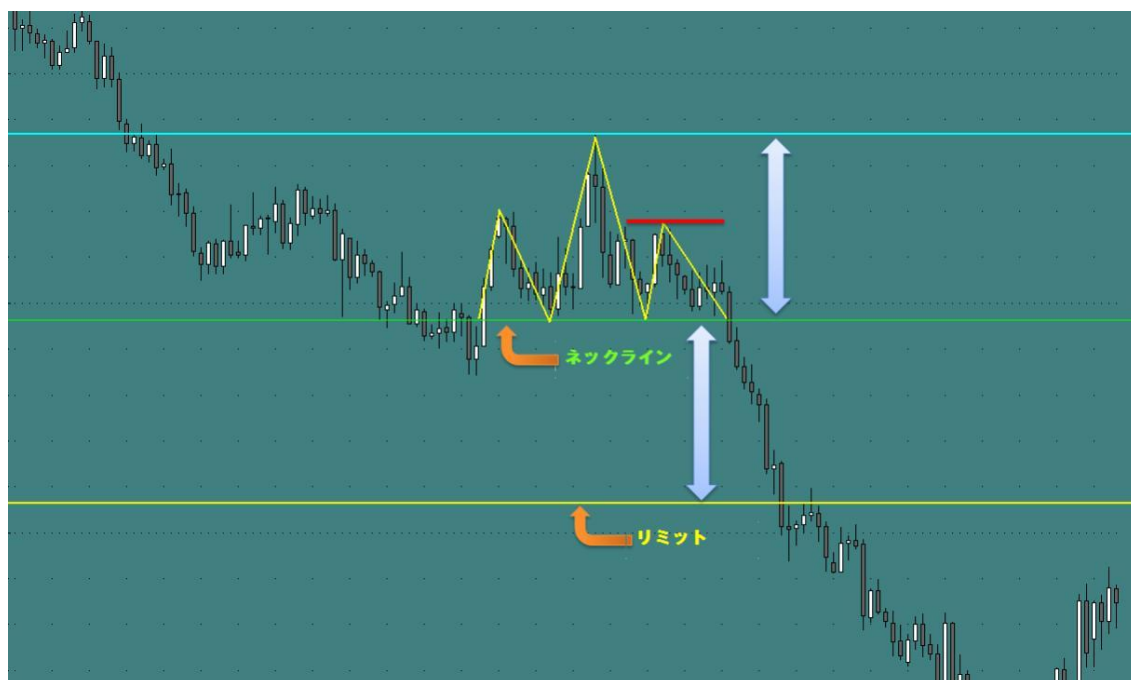
その後、ネックライン（赤横線）を下に割りました。ネックラインを下回ると、先程、買い注文を入れたトレーダーのロスカット注文（売り注文）とダブルトップを狙っての新規売り注文が入り、価格が更に下がって行きます。

このようにして、ダブルトップ（ダブルボトム）が出来る訳です。

結果的に、トレンドライン（緑）を上を割ったのですが再度戻り、新たなトレンドライン（水色）に更新しました。

[▲目次へ戻る▲](#)

(4) ヘッドアンドショルダー



日本では「三尊」とも言います。捉え方はダブルトップと非常に似ています。

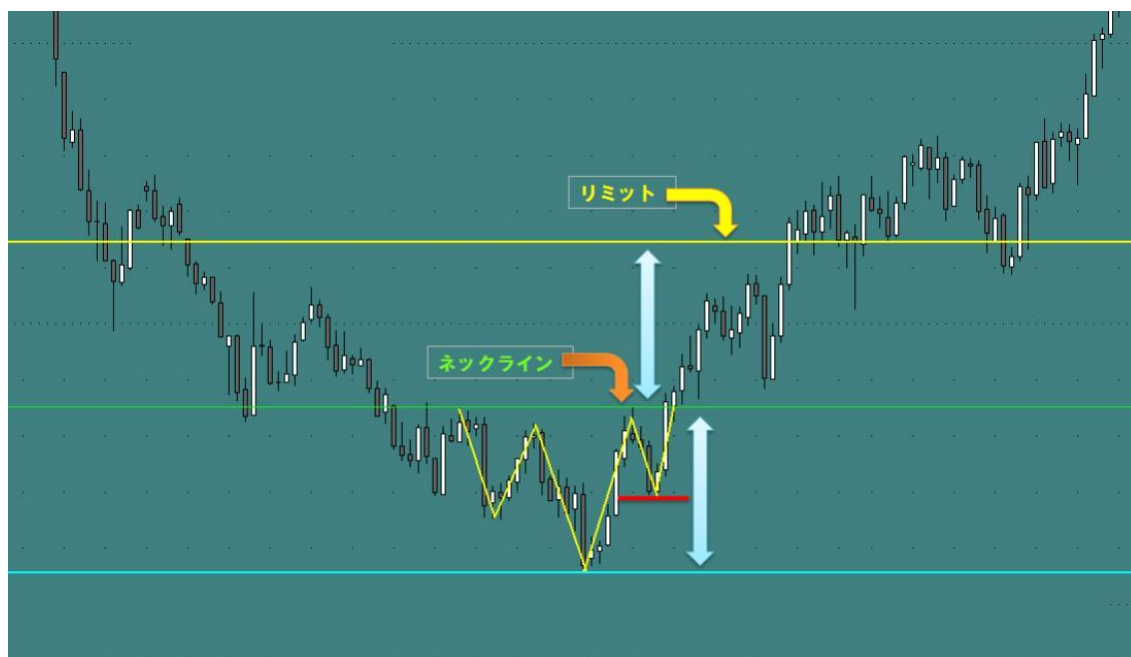
ダブルトップと違う所は高値（水色）を3回試し、真ん中の高値が横2つの高値より上回っています。横2つの高値を「肩」、真ん中の高値を「頭」として、ヘッドアンドショルダーと呼ばれています。

高値（水色）を3回試して、3回とも売りに押され、ネックライン（緑）を下回ると、ダウントレンドが発生しやすい為、ネックライン（緑）をブレイク後にエントリー、ネックライン（緑）と真ん中の高値（水色）の幅（pips数）と同じ幅を、ネックライン（緑）から下に計り、リミット（黄色）を設定します。

ストップは3つ目の高値（赤横線）に設定します。

[▲目次へ戻る▲](#)

(5) 逆ヘッドアンドショルダー



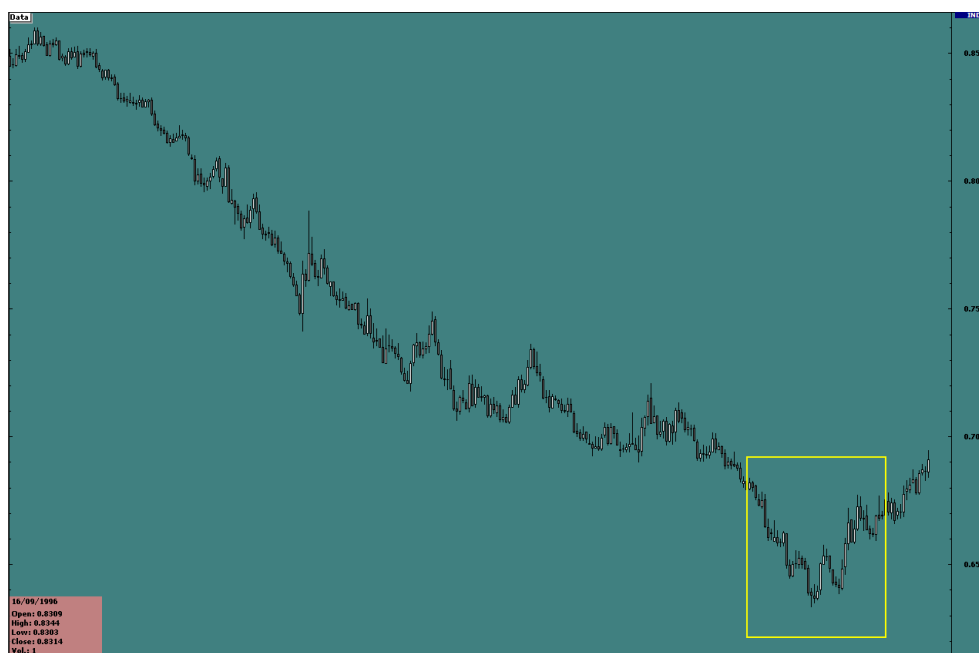
日本では「逆三尊」とも言います。これもダブルボトムと非常に似ています。

安値（水色）を3回試して、3回とも売りに押され、ネックライン（緑）を上回るとアップトレンドが発生しやすい為、ネックライン（緑）をブレイク後にエントリー、ネックライン（緑）と真ん中の高値（水色）の幅（pips数）と同じ幅を、ネックライン（緑）から上に計り、リミット（黄色）を設定します。

ストップは3つ目の安値（赤横線）に設定します。

[▲目次へ戻る▲](#)

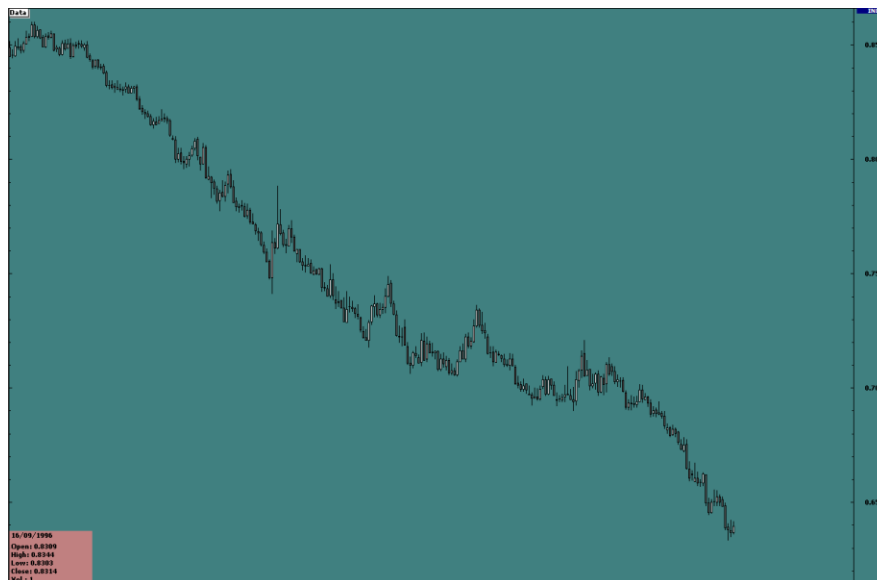
(6) ヘッドアンドショルダー (逆ヘッドアンドショルダー) ができる訳



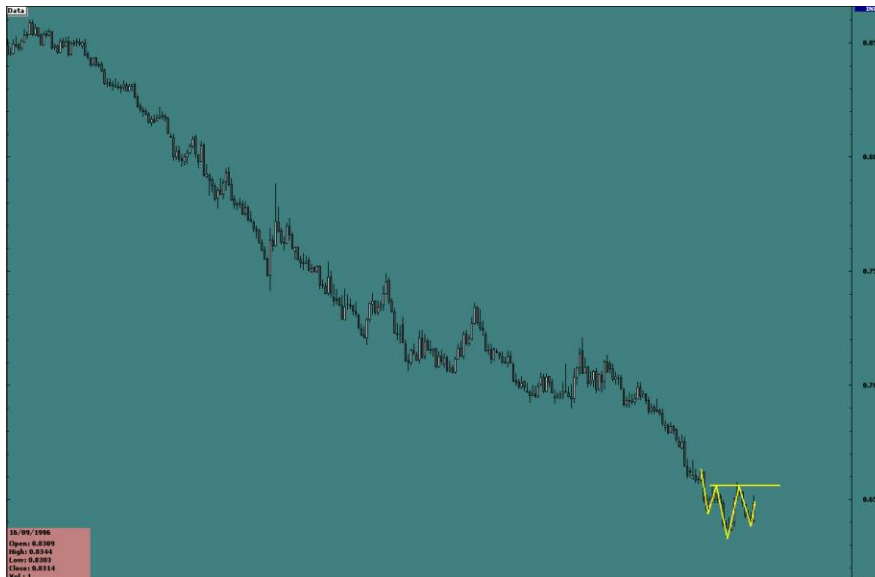
上のチャートで黄色の四角で囲まれた部分が、逆ヘッドアンドショルダーです。

どの様に、逆ヘッドアンドショルダーが出来上がったのか、テクニカル分析の観点から見た市場心理等も織り交ぜ、順を追って説明します。

逆ヘッドアンドショルダーが出来上がる少し前から見てみます。



上のチャートを見る限りダウントレンドです。長いダウントレンドなのでトレンドフォローのトレーダーは既に売りポジションを持っているか、新たな売り場を探している状態です。



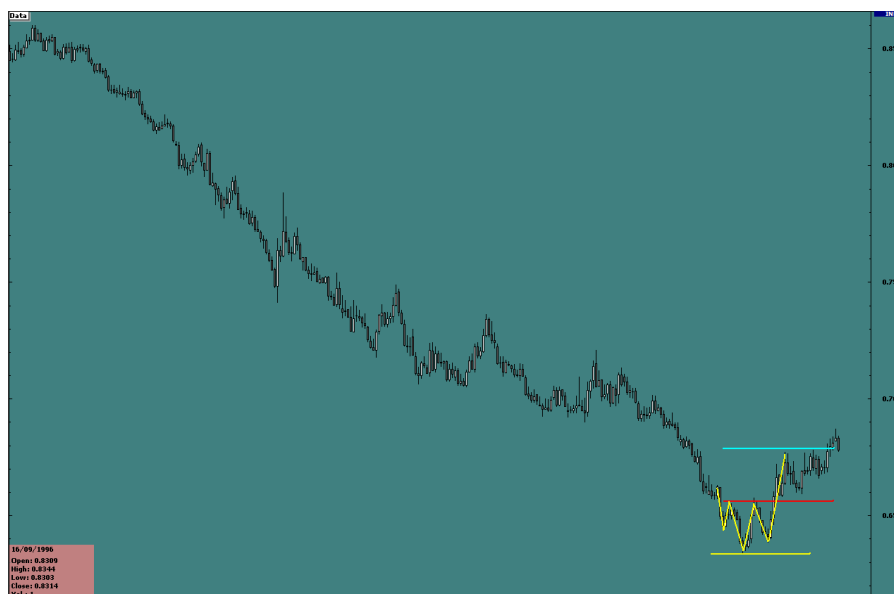
その後、直近の高値まで値段を戻し安値が切り上がると、あとはネックライン（黄色横線）を割れば逆ヘッドアンドショルダー（逆三尊）となります。ダブルトップやダブルボトムと同じく、トレンドの転換期に見られる事があるチャートパターンです。

既に売りでポジションを持っているトレーダーは、この時点でネックラインの少し上にストップを移動させ、また、ネックラインを割った所で買いのポジションを狙っているトレーダーも現れます。

移動平均線（MA）やMACDをエントリータイミングとしていれば、ネックラインを上を割る前に買いでポジションを持つトレーダーも現れます。

その場合、ネックラインまで狙っていくトレーダーとネックラインの上を狙っているトレーダーに分かれます。

その為、ネックライン付近でネックラインまで狙っていたトレーダーのリミットオーダーが入ります。買いの決済は売りなので、買いの勢いも衰え、結果、レジスタンスとなります。ここでリミットオーダーが多いと、値段は下がり、ネックラインのレジスタンスが強いとも判断出来ます。



結果として、ネックラインを上に割り、逆ヘッドアンドショルダーが形成されました。一番安い安値（黄色横線）とネックライン（赤横線）の同じ幅（水色横線）までトレードするのが定石とされています。

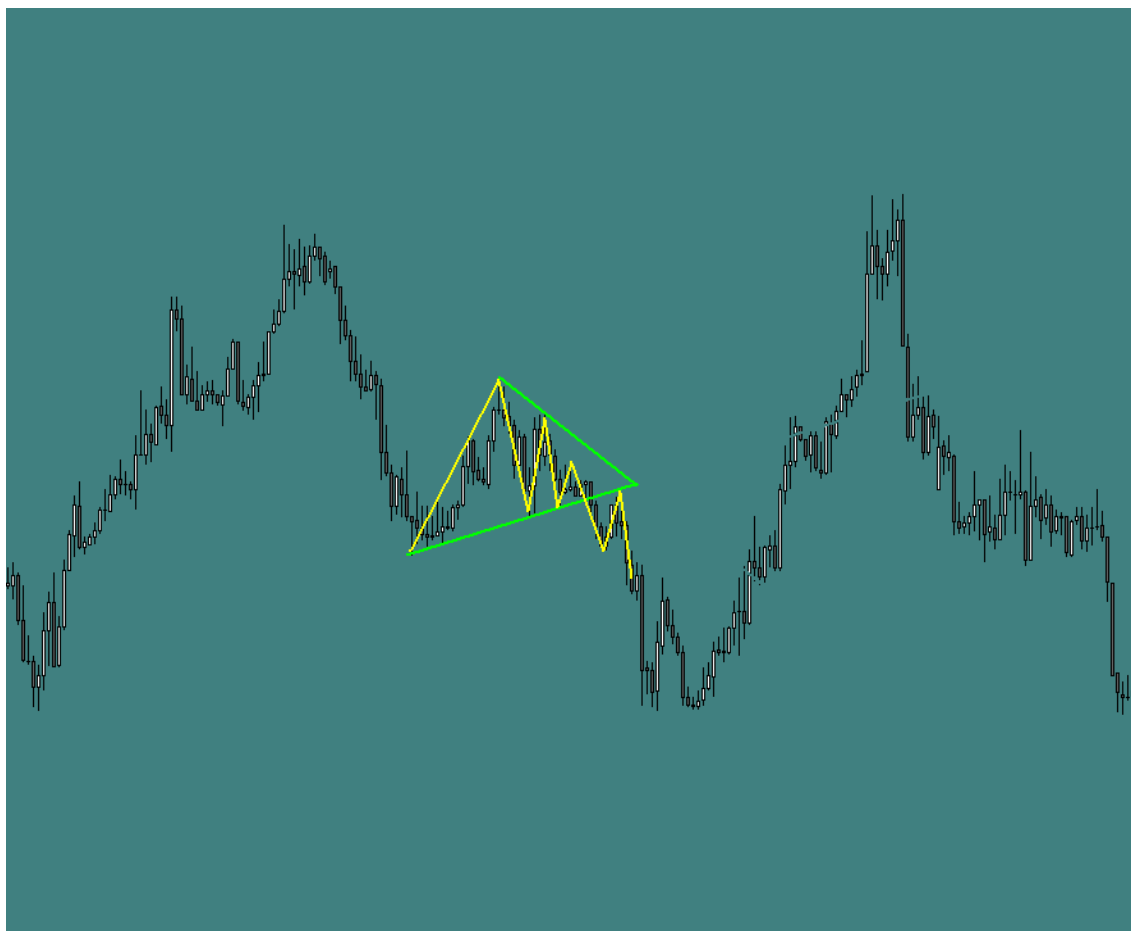
ネックライン（赤横線）を割ると、トレンドフォロートレードのストップオーダーと新規買い注文が現れ、値段が上昇し易くなります。

このようにして、ヘッドアンドショルダー（逆ヘッドアンドショルダー）が出来る訳です。

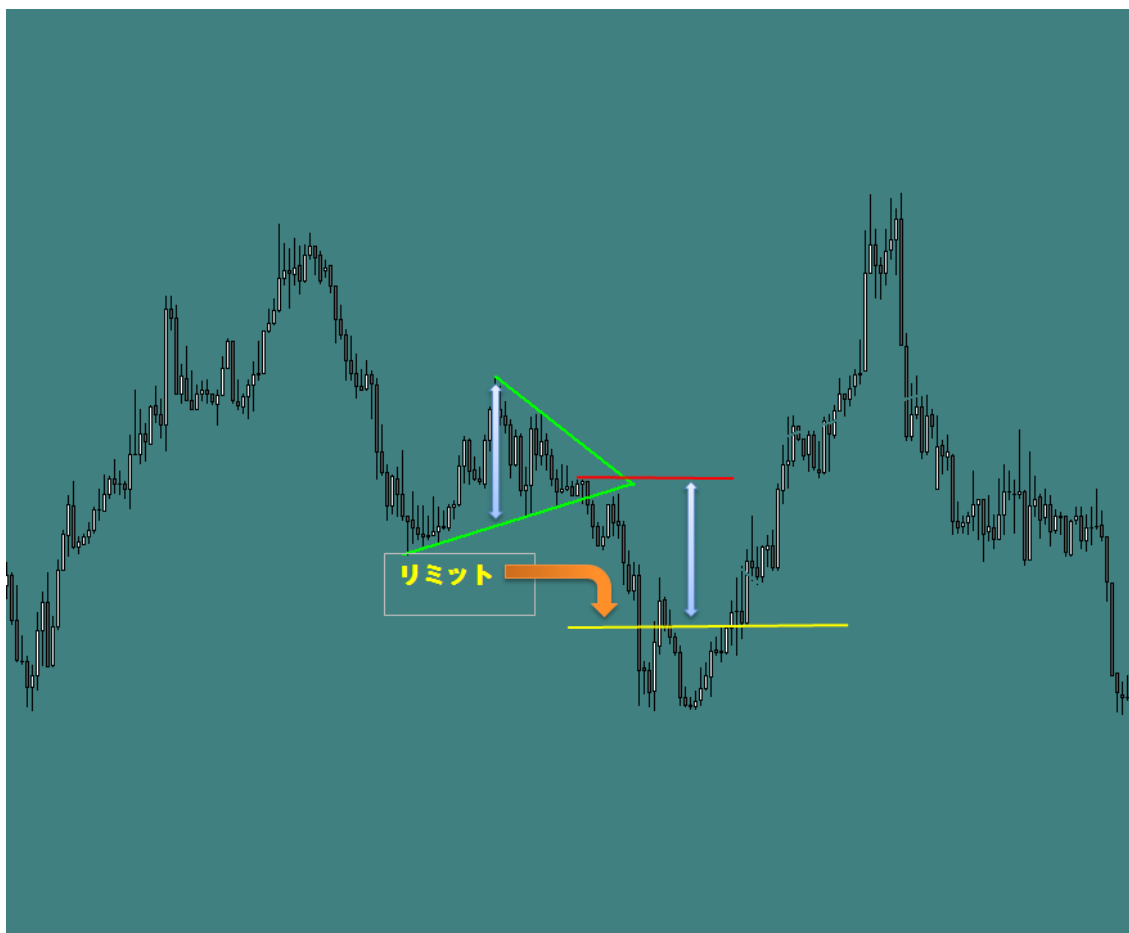
[▲目次へ戻る▲](#)

■ 持ち合い時に見られるチャートパターン (三角持ち合い系)

(1) ペナント



三角持ち合いの中でも一番オーソドックスなチャートパターンと言えます。通常、ブレイクした方向のポジションを取ります。上のペナントだと、下にブレイクしているので、ポジションは売りとなります。



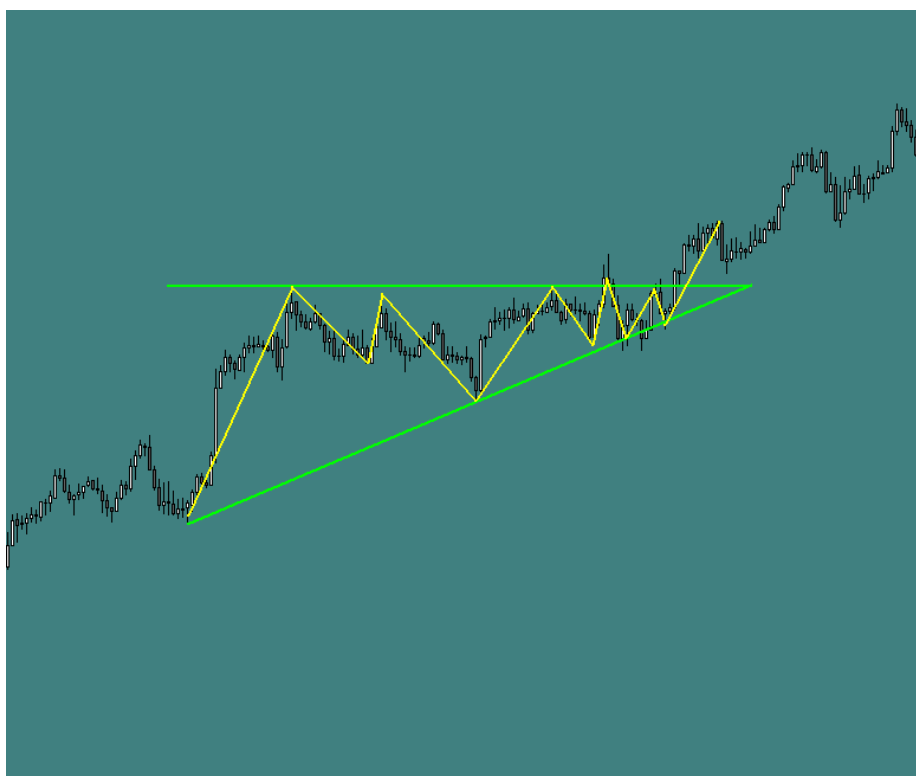
ペナントでのリミットの定石は上記の通りです。

このペナントですとペナント部分最高値から下のレジスタンスライン（緑）までの幅（pips 数）と同じ幅を、この場合、下にブレイクしているので、直近の高値（赤）から下にリミット（黄色）を設定します。

ストップはブレイク前の直近の高値（赤）に設定します。

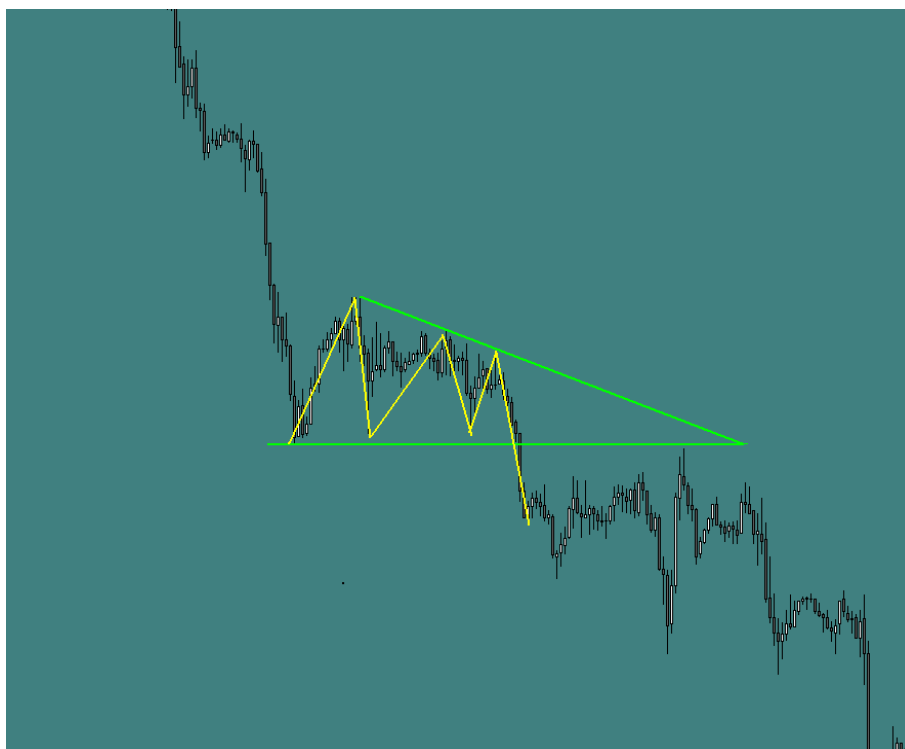
[▲目次へ戻る▲](#)

(2) アセンディング・トライアングル



[▲目次へ戻る▲](#)

(3) ディセンディング・トライアングル



三角持ち合いで、上値が水平なチャートパターンを「アセンディング・トライアングル」、下値が水平なチャートパターンを「ディセンディング・トライアングル」と言います。

[▲目次へ戻る▲](#)

(4) ウェッジ



三角持ち合いで、くさび形になっているものは「ウェッジ」と言います。

[▲目次へ戻る▲](#)

(5) 三角持ち合いが出来る訳

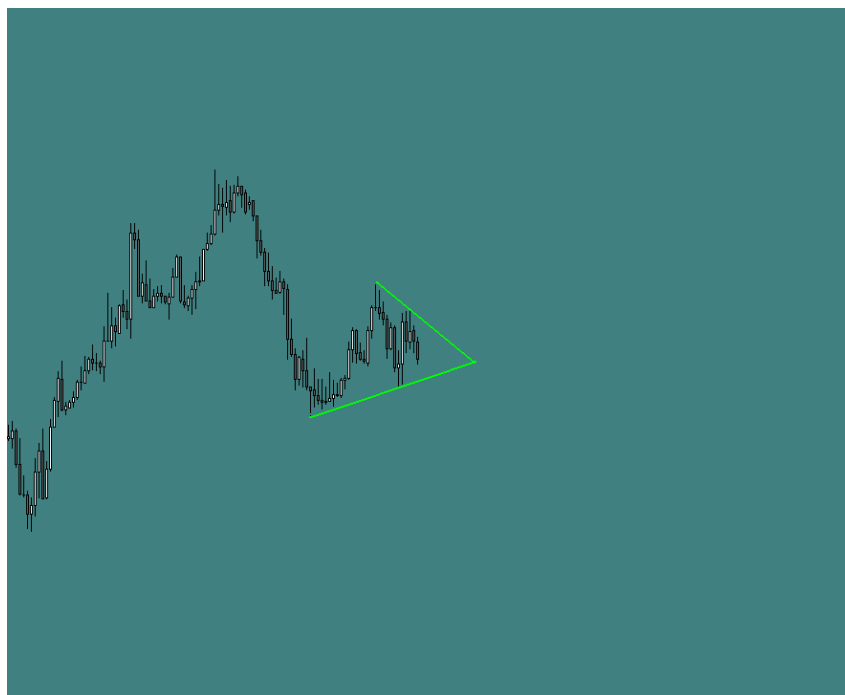
まず、三角持ち合いのチャートパターンを参考にトレードする場合、トレンドフォローのトレードが前提となります。

トレンド発生時に、調整（反発）として発生する事が多く、三角持ち合いから再度トレンド方向にブレイクした時にエントリーするのが定石です。

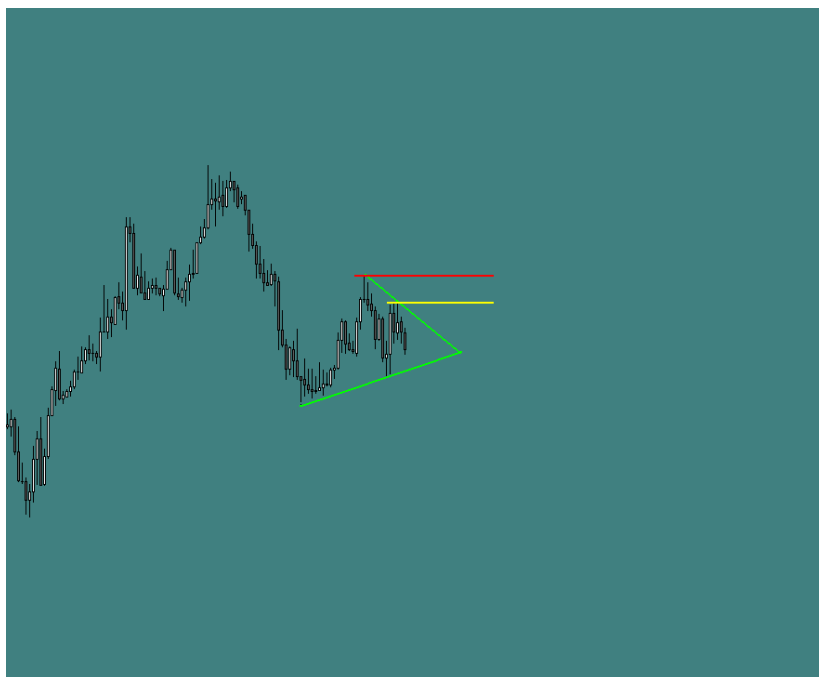
しかし、例外もあります。「ウェッジ」の場合、エリオット波動の5波にも多く見られるチャートパターンでもあり、「ペナント」も相場のピーク時に現れる事もあります。

必ずトレンド方向に向かう訳ではない事を念頭に置き、柔軟に対応してトレードして下さい。

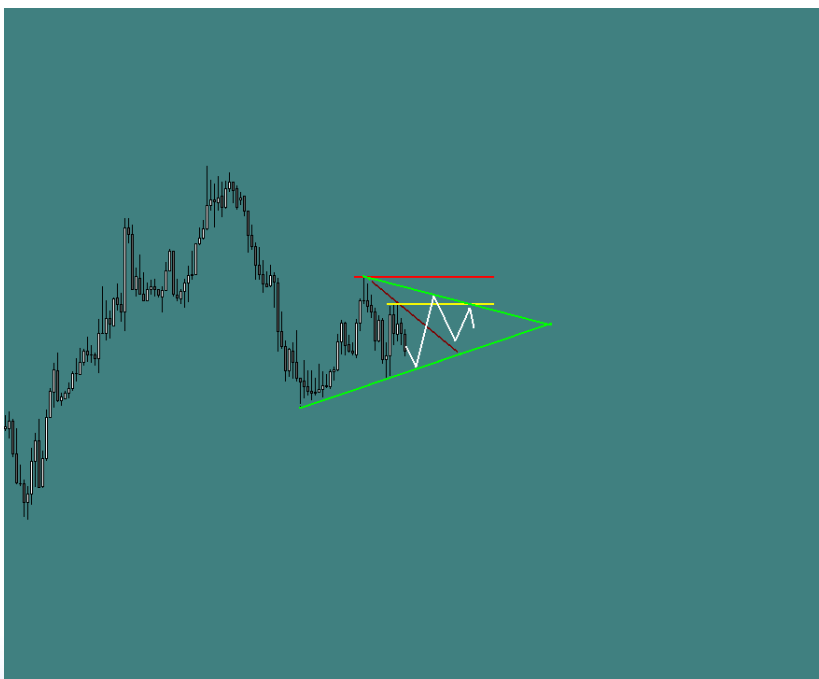
テクニカル分析の観点から見た市場心理等も織り交ぜ、順を追って説明します。



上のチャートのように、直近のダウントレンドの調整（反発）としてペナントが発生した場合、ペナントの下にブレイクした時に売りエントリーが定石です。下にブレイクならペナントの基本通りですが、上にブレイクした時のオーソドックスな対応方法を説明します。



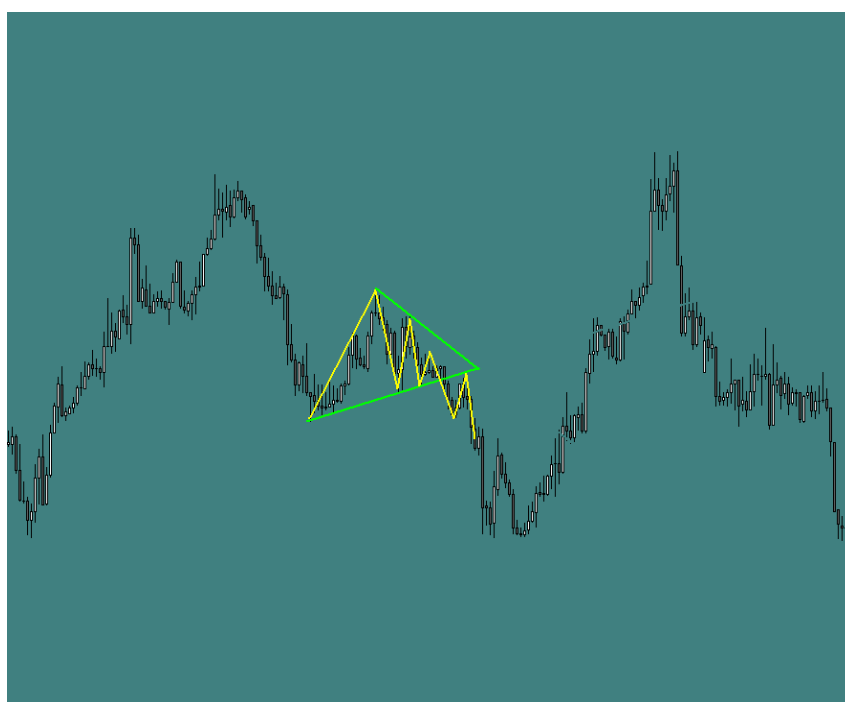
持ち合い発生時に主要な高値と安値が 2 個ずつあります。この場合、ダウントレンドの調整としてペナントが発生していると判断して、下にブレイクすれば定石通りですが、価格が上がった場合、注目する高値は主要な 2 個の高値（赤と黄）です。



黄横線を上にブレイクしただけではペナントの形が変わるだけでペナントが継

続する事があり、ペナントを上をブレイクしたと捉えて買いエントリーすると結果的に高値を掴み、下をブレイクした後にロスカット注文で売りが進み、値段も下がります。

この場合、重要なのは赤横線のペナント最高値です。最高値を更新したらペナントではなくなり、ダウ理論で判断してもアップトレンドになります。高値を更新してから買い場を探しても遅くはありません。



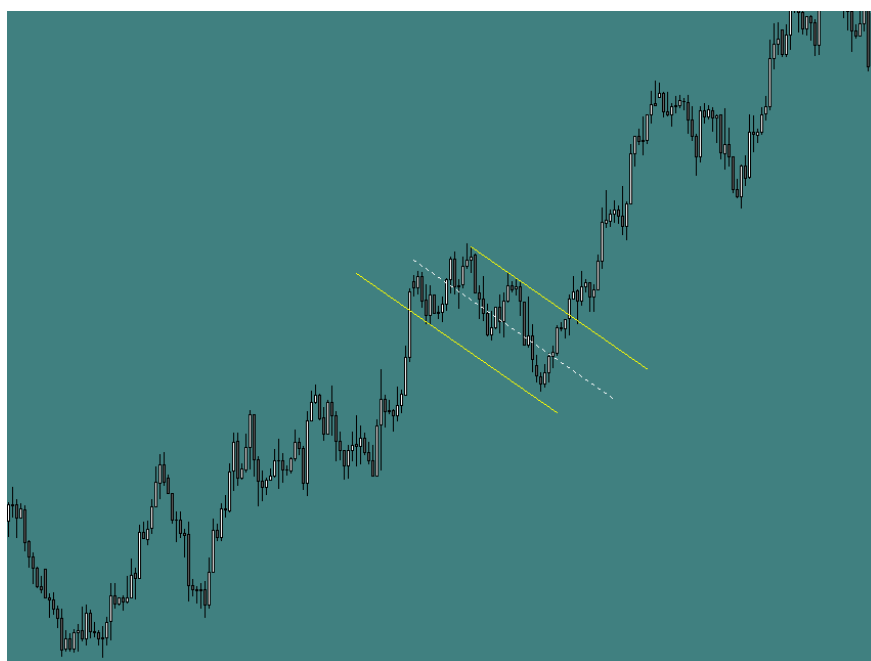
上のチャートの場合、定石通りの下にブレイクをしました。

イレギュラーな出来事はありません。イレギュラーと感じるのは自分がその対処方法を持っていないだけです。起こり得る出来事を常に想定する事は柔軟な対応に繋がります。

[▲目次へ戻る▲](#)

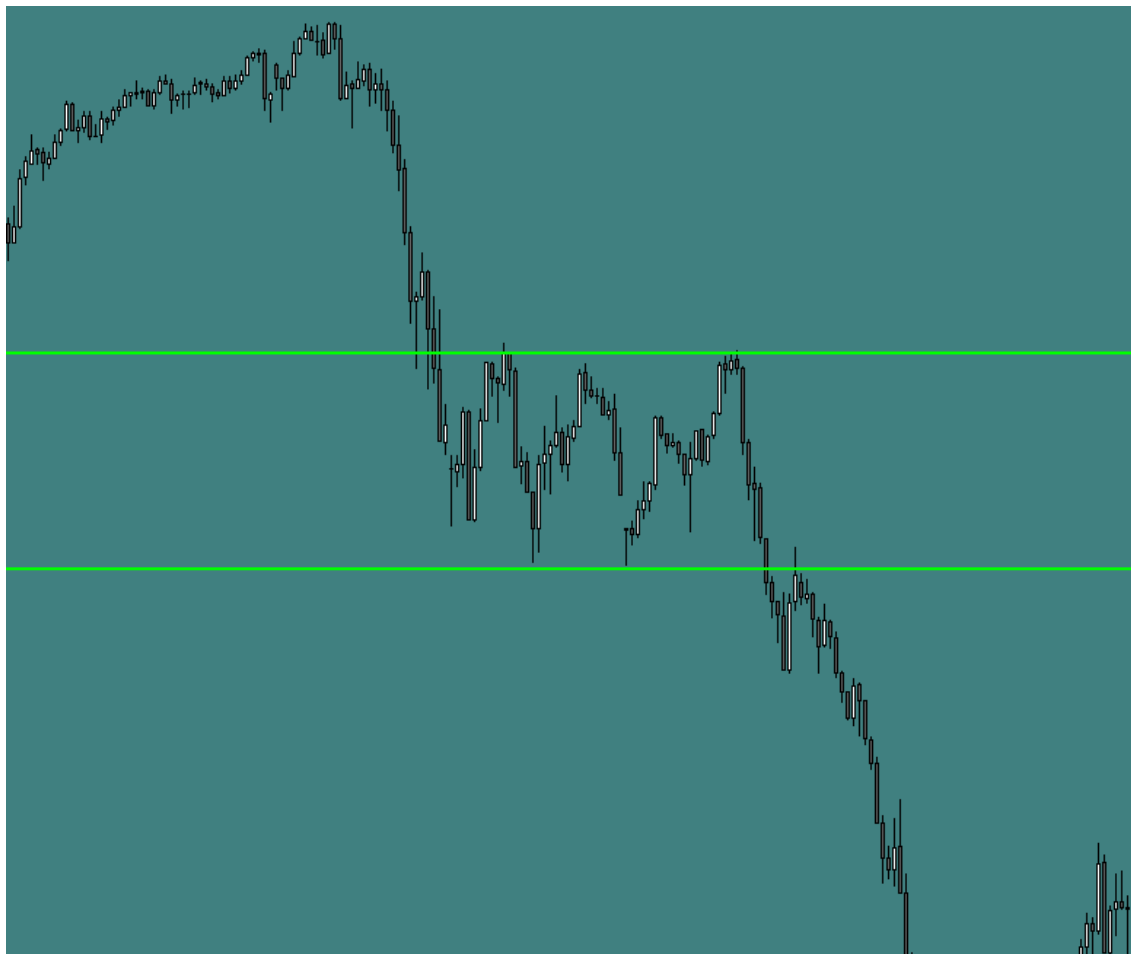
■ その他持ち合い系のチャートパターン

(1) フラッグ



上値・下値のラインが斜めで水平になっている持ち合いをフラッグと呼びます。

(2) ボックス



横這いとも言います。上値・下値が水平に持ち合うのをボックスと呼びます。

[▲目次へ戻る▲](#)

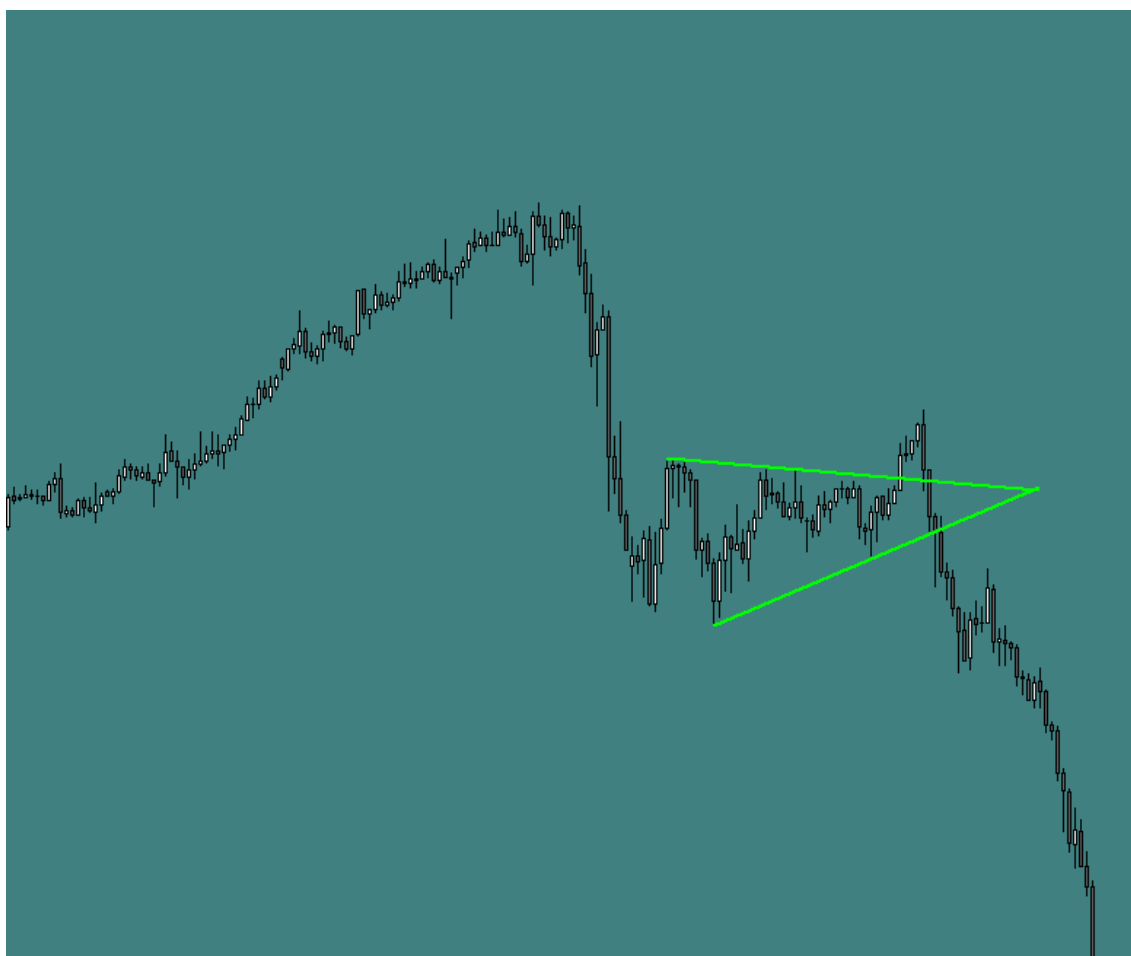
■ チャートパターンでの『騙し』について

チャートパターンを参考にしてのエントリーの場合、トレンドがブレイクした方にポジションを持つのが基本です。しかし、トレンドフォロワーのトレードならば、トレンドの確認も忘れずにする必要があります。

ポジションを持った後に逆張りだった、と気付くようでは遅く、後の祭りになってしまいます。

持ち合い系のチャートパターンは基本的にトレンドの方向にブレイクする事が一般的です。但し、特に持ち合い系のチャートパターンの場合、一度トレンドと逆の方向にブレイクして、その後、逆方向のトレンドに向かう事があります。俗に言う『騙し』です。

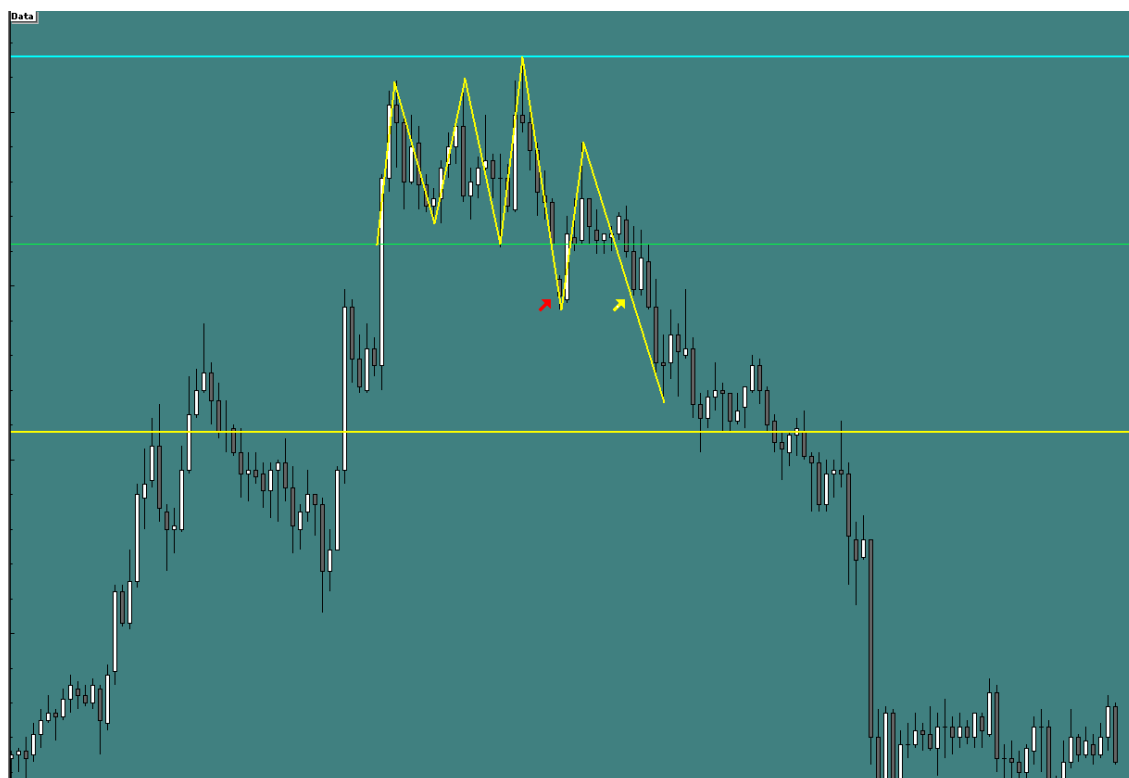
例を見て行きましょう。



上のペナントを見てみると、一度、上にブレイクしています。その後、トレンドに沿って下がっています。

チャートを見ているとよくあるパターンではあるのですが、一度上に抜けた事で買い手が現れます。しかし、トレンドの方向に戻され価格は下がります。

ペナントの中に戻り、下にブレイクすると、今度は売り手が現れて、その上、先程、上にブレイクした時に買い手に回っていた人達のロスカット注文も入るので、更に価格は下がり、ダウントrendが発生します。



ダブルトップ（ダブルボトム）やヘッドアンドショルダー（逆ヘッドアンドショルダー）でよく見られる騙しのパターンです。

ストップを、ネックライン（緑）に設定したトレーダーは、上のチャートを見ると赤矢印で売りポジションを持ち、ネックライン（緑）にストップを設定していたら、一度ストップに掛かり決済されています。

再度下がってきた場合、黄色矢印で、再売りを検討するのも定石です。

相場格言に「損せぬ人に儲けなし」という言葉があります。騙しもトレードをする限り有り得る事なので、騙しに引っ掛かって動揺せず、落ち着いて柔軟にトレードして下さい。

[▲目次へ戻る▲](#)

Part2 トレーダーとしてのレベルアップの為に

第7章 チャートパターン

株式会社チャートマスター